

行政視察報告書

令和4年8月19日

会派名 江南クラブ
会派代表者 牧野 圭佑

(参加者：宮地友治、牧野圭佑、稲山明敏、尾関昭、片山裕之)

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	令和4年7月26日(火)
視察時間	午後2時～午後3時30分
視察先	広島県 三原市
視察項目	デマンド交通について

②

年月日	令和4年7月27日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時
視察先	広島県 広島市
視察項目	広島市総合福祉センターについて

③

年月日	令和4年7月28日(木)
視察時間	午前9時30分～午前11時
視察先	広島県 呉市
視察項目	データヘルスによる健康寿命の延伸について

行政視察報告書

①

年月日	令和4年7月26日（火）
視察時間	午後2時～午後3時30分
視察先	広島県 三原市
視察項目	デマンド交通について
■目的 少子高齢化と人口減少も始まり、またマイカー利用によりバス利用者が減少していくなか、不採算バス路線事業者への行政補助や移動困難者・買い物難民への対策など、当市においても抱える問題は今後も増える一方である。 当市よりさらに地理的条件が厳しい行政区では、どのような対策をとり、これらの課題に応じ市民の生活を支えているのか、学ぶべきことは多い。特に地域の実情に応じたデマンド交通を導入している広島県三原市の事例を学ぶことで、将来の当市に置きかえて今後の対策の一助となるよう調査・研究させていただく機会とした。	
■内容 ○デマンド型乗合タクシーによる運行 ・5つの地域で区域運行 ・運営主体は、地域住民団体が担う ① 本郷地域（人口約10,000人） 本郷ふれあいタクシー 10人乗りワゴン車 3台にて運行 ② 久井地域（人口約5,000人） 久井町乗合タクシーはなさく号 10人乗りワゴン車 2台にて運行 ③ 大和地域（人口約6,000人） 大和ふれあいタクシー 10人乗りワゴン車 3台にて運行 ④ 幸崎町（ ） 幸崎町渡瀬・奥三地区おでかけ号 10人乗りワゴン車 1台にて運行 ⑤ 八幡町（人口200～250人） 八幡町民タクシーさくら号 10人乗りワゴン車 1台にて運行 ・地域住民全員が利用できるのが特徴 ・自宅からバス停等の目的地までをつなぐサービス ・とくに高齢者の移動負担の軽減につながると考え、地域の実情に応じた方法 ○運行事業の予算（合計 41,180,000円） ① 本郷ふれあいタクシー 12,509,000円 ② 久井町乗合タクシーはなさく号 8,325,000円	

③ 大和ふれあいタクシー

12,790,000 円

④ 幸崎町渡瀬・奥三地区おでかけ号

3,313,000 円

⑤ 八幡町民タクシーさくら号

4,243,000 円

○補助メニューについて

国：地域公共交通確保 維持改善事業費補助金 4,100,000 円

県：市町等運行路線 再編促進費補助金 1,614,000 円

○利用者意見

(肯定的)

- ・ 自宅まで来てもらえる便利さ
- ・ 乗り継ぎバスに合わせて利用できる
- ・ 通院、買い物に使えて助かる
- ・ 安い料金で目的地まで行ける

(否定的)

- ・ 運行日が少ない
- ・ 料金(300円)が高いと思う
- ・ 時間が不便
- ・ 三原市中心部まで直接行ってもらえると良いのだが

○問題点と今後の取組

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大により、デマンド交通の利用状況は悪化
- ・ 地域住民主体のいわゆる「手上げ方式」で運用を行ってきたが、町内会加入率の低下や役員の高齢化等により、主体的に取り組むことが難しい地域が生じ始めた
- ・ 運行状況を検証し、協議を重ね、普及・利用促進の取組を行うこと
- ・ 社会福祉協議会や民間事業者などの第三者による管理・運営も検討していく

■所感

地域の足という問題は、今後さらに少子高齢化が進むなかで避けては通れない道である。とりわけ実施自治体の地理的な条件が各々異なる故、何をやれば正解なのかは自治体の数だけ答えがあると考えるのが正解だ。多くの自治体から運用や実施方針をより多く学び、当市に置きかえたときの最良がどこにあるのか、この視察で得られた気づきを基に現況の地域交通のあり方を再度検証し、今後につなぐ検討課題としていく必要があると改めて感じた。

行政視察報告書

②

年月日	令和4年7月27日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時
視察先	広島県 広島市
視察項目	広島市総合福祉センターについて
■目的 市の福祉事業の拠点となる広島市総合福祉センターについて、その概要や利用者の声、課題などを学ぶことにより、今後の江南市の福祉活動に生かすことができるよう、調査・研究の機会とする。	
■内容 広島市南区松原町5-1 広島駅南口Bブロック市街地再開発ビル（地下2階、地上52階建て）の5・6階の一部4,082.82㎡に開設 ・開設日：平成28年12月5日 ・所有区分：広島市 ・設置目的：福祉を目的とする市民の交流及び活動の場の提供等により、市民の自主的な福祉活動及び地域における福祉活動の充実強化を支援し、もって福祉の総合的な推進を図るため、設置するもの。 ・事業内容： ①福祉を目的とする市民の交流及び活動の場として施設を提供 ②本市における福祉活動を担う人材の育成等 ③地域福祉センターが行う事業に対する支援 ・整備費用：20億円（買取14億円、設備6億円） ・指定管理者：社会福祉法人広島市社会福祉協議会 ・入居福祉関係団体：広島市社会福祉協議会、広島市老人福祉施設連盟、広島市身体障害者福祉団体連合会、広島市老人クラブ連合会、広島市保育連盟、広島市私立保育協会、広島市私立幼稚園協会、広島市地域女性団体連絡協議会、広島市母子寡婦福祉連合会 (1) 施設の設置について 市内には区を単位とした地域福祉センターが整備されており、地域福祉センターへの支援を担う全市的な福祉活動の拠点としての役割を担う中区千田町の社会福祉センターは施設の老朽化が進み、耐震化やバリアフリーの対応ができておらず、機能拡充のためのスペース確保も困難なため、高齢者や障害者にとっても利用しやすい広島駅前に移転し、機能を拡充・強化した総合福祉センターを整備した。	

(2) 施設の概要について

主な利用用途は「会議」「研修・講座」「サークル活動」「講演会・相談会」「大会・式典」があり、中でも「サークル活動」が全体の3割強

- ・施設の使用料は無料。(目的以外の目的に使用する場合は使用料を徴収)
- ・開館時間は9時から21時

(3) 利用者の声

- ・利便性がよく、利用しやすい
- ・高齢者にとって便利で使いやすい
- ・駅前という立地が、市民の為に開かれた場所となっている

(4) 利用者からの要望等に対する取組と課題

- ・アンケート等利用者の声を受け、料理教室に設置する洗剤等の追加、個室トイレの音消し導入、表面温度計等の貸し出し対応等を行った。また、館内で利用できるフリーWi-Fiについても、機器更新時に環境の見直しをしている。
- ・施設の課題としては、5階と6階の移動がエレベーターのみであり、階段の利用を望まれる声が多いが、建物の構造上対応ができないことや、好立地であることから利用希望が多く、利用希望者への求めに応えきれない事など。

(5) 今後の取組

社会福祉協議会が公募により指定管理者となり、管理期間は5年で令和7年度末までとなっているが、期間終了後も引き続き指定管理を受けられるよう、誠実に業務を履行していきたいと考えている。

■所感

今回視察を行った広島市総合福祉センターは、地元の社会福祉協議会を指定管理者として運営されている。地元の現状を知り尽くしているので、安心な運営ができていると感じた。

また、広島駅前という立地(駅から徒歩3分)は抜群のアクセスの良さから利用しやすく、便利で使いやすい場所となっており、市民から見ると、市の福祉優先度が伝わり、市民の為に開かれた場所となっている。

また、施設内に60歳以上の市民を対象にシニア応援センターが開設され、マンツーマンにより、仕事やボランティア活動、生涯学習の紹介など、5年間で延べ12,000人に利用されているとのこと。江南市も開設を検討すべきと感じた。なお、風呂は設置されていない。

行政視察報告書

③

年月日	令和4年7月28日(木)
視察時間	午前9時30分～午前11時
視察先	広島県 呉市
視察項目	データヘルスによる健康寿命の延伸について
■目的 健康寿命日本一を目指し、様々なデータを活用した取組を行っている呉市に学ぶことにより、江南市においても実施可能な健康増進及び医療費適正化に資する取組について探るための参考とする。	
■内容 呉市の人口 211,359人 【高齢化率】 36.0%（参考：国28.7%、江南市27.41%、R2.9月） 高齢者人口：76,193人（後期高齢医療被保険者数 43,751人） 呉市国保加入者の高齢化率 56.8% 【病院の状況】 400床以上の病院が3機関 一人当たり医療費（令和2年度） 46万4千円（県の1.13倍、国の1.25倍） ○呉市の計画・目標 第5次長期総合計画（2021～2030） 目指すべき姿・・・誰もが住み慣れた地域で健やかに安心して暮らし続けることができるまち ～健康寿命の延伸+国民健康保険の健全運営～ ・市民の健康寿命を延ばす ・自分らしく暮らせる地域づくりを進める ↓ 生活習慣病予防を柱とした保険事業の推進 (平成30年データ) 呉市男性 健康期間の平均79.32年、不健康な期間の平均0.97年 呉市女性 健康期間の平均84.46年、不健康な期間の平均2.39年	

○呉市における医療費適正化に向けての取組

1. レセプト点検の充実・効率化
 2. レセプト情報の活用による医療費等の分析
 3. ジェネリック医薬品の使用促進通知
生活習慣病等で長期にわたって服用し続けなければならない医薬品等について、切り替え可能なジェネリック医薬品の情報を被保険者に提供
 4. 訪問指導・重症化予防など各種保険事業
 - ・医療費の伸びが大きく、医薬品が高額な疾病への対策
→重症化を予防することが大切
 - ・重複・頻回受診者、生活習慣病放置者等への適正受診に向けた訪問指導
 - ・特定検診データとレセプト情報との参照による受診勧奨
 - ・併用禁忌・回避医薬品処方情報の提供
- ※レセプト分析により、各事業のPDCAサイクル（計画・行動・評価・改善）が可能

○目指せ！健康寿命日本一プロジェクト

～全世代を通じた「健康づくり」の取組が重要～

【基本理念】市民が生涯にわたり住み慣れた地域で安心して快適に生活できる生活都市“呉”

【基本目標】健康寿命日本一の町「呉」の実現

■所感

呉市は健康寿命日本一をめざしており、医療・介護データ等を平成20年度からデータベース化し、ジェネリック医薬品促進通知を手始めに、健康管理増進システムと特定健診データを突合し、医療費適正化にむけて取り組んでいる。

さらに組織横断的な事業推進として「健康政策グループ」を新設した。

また、新たな事業展開として、骨折の医療費が多くかかっているというデータから骨粗しょう症重症化予防プロジェクトなども取り組まれている。

呉市が行う、「ライフサイクルに沿った総合的かつ効率的な事業展開の推進」は見習うべきものである。